

校長ニューズレター(第35号・10月号) 宜野湾市立長田小学校校長:横山芳春



修学旅行と環境修学旅行

今月19日～20日に6年生と修学旅行に行ってきました。21日～22日には第56回九州ブロックPTA研究大会(北九州大会)に参加しました。

修学旅行は、伊江島観光と本部でマリン体験を楽しみました。マリン体験は、本部の真っ青な海で、『サバニ』によって伝統的な漕法を練習。それとバナナボートでおおはしゃぎ。

PTA研究大会では、「環境」部会にはいりました。発表では、北九州市役所の環境観光担当課長の“火の玉娘”こと上田ゆかりさんの話が興味深かった。

北九州市は、明治時代になって官営の八幡製鉄所が操業。日本の四大工業地帯のひとつになっていきました。高度成長期には、空は七色の煤煙がうすまき、洞海湾は死の海と化し、大腸菌も住めないような汚染された海なりはてました。公害の町です。

その公害都市が「環境都市」として甦えります。市民と企業と行政が力を合わせて努力し、昭和50年代後半から劇的に改善されていきます。ここからもうすぐいいところで、北九州市は快適な都市環境づくりに発展させていき、いまでは、環境をよくしていくリーダー的な都市になっています。

さて環境観光担当の上田課長の発表にもどりましょう。彼女は、「環境修学旅行」なるものを提案し、実際にこの修学旅行が北九州ではじまっています。

環境修学旅行は、「北九州でしかできない! 北九州だからできる!」を合い言葉に、3つのテーマをもっています。それは、「地球温暖化防止」「資源循環」「自然共生」です。これらの3つのテーマは、北九州市の実績に支えられています。

「地球温暖化防止」では、市は風力発電と太陽光発電によるクリーンエネルギーを作る試みを行っています。石炭や石油によって発電をすると、たくさんの二

酸化炭素をだしてしまって、地球温暖化を助長してしまいます。温暖化の防止策として風力発電などを試みているのです。

「資源循環」は、市のエコタウンで民間企業が自動車リサイクル工場やOA機器リサイクル工場をもうけて、資源循環をおこなっています。

「自然共生」では、「いのちの旅博物館」「到津の森公園」「シャボン玉せっけん工場」などの取り組みがあります。

修学旅行では、これらの施設を見学します。あわせて、体験学習として「ドングリの植樹体験(廃棄物処理場地で)」「ミニ風力発電機づくり」「生ゴミ堆肥化」も実施。子どもたちからは、「教室で勉強したことを実物で見られて分かりやすかった」との感想。

上田課長は、「学校側は体験学習を求める。満足してもらえるメニューを豊富にすること」と発言されている。

沖縄県には、他府県の高校生が修学旅行にたくさん来ている。内容はやはりマリン体験が主流のようだ。他府県にはない亜熱帯性の気候と蒼い海は、生徒たちにおおきな満足感をあたえている。

沖縄での主流の修学旅行は、今ある資源の活用型といえよう。これに自然共生型(自然環境をよくしていく取り組みの紹介やそういった体験学習)をプラスしていくことが必要であること(もちろんこういった試みもすでにあることはありますが・・・)、これが私がPTA研究大会に参加した一つの学びでした。

本校の修学旅行とPTA北九大会で、期せずして修学旅行を考える機会をえられました。子どもたちや大人たちの旅行が、自然を食いつぶすことなく、自然の保全・再生や経済との共生ができるような形を願っています。